

健康ぷらざ

No.407

企画:日本医師会

ぱつちりしていた目が小さくなった

がんけん かすい

…老人性眼瞼下垂かもしれません

日本は世界一の長寿国です。

年をとると、いろいろな病気と付き合っていかなければなりません。

「若い頃はぱつちりした目だったのに、年をとるとこれ小さくなった」

「目が重くて開けにくい」「真ん中から上が見にくい」「まぶたがうっとうしい」

などと感じることはありませんか？

これらの症状は老人性眼瞼下垂によくみられることです。

下がったまぶたを無理に持ち上げようとすると、

額に深い皺ひたいしわがよったりします。

視界を広げるために、無意識に顎あごを上げて下目使いで物を見たりしていると、

頭痛や肩こりの原因になります。

この病気は、まれに神経や筋肉が原因の場合もありますが、

多くは加齢によってまぶたの筋肉の付着部が

緩んでしまったりで起ります。

手術で治療できますので、以前のように快適に過ごすためにも、

まずはかかりつけの医師に相談してみましょう。

必要に応じて眼科や形成外科の専門医への紹介があるでしょう。

